



Bowland Maths “交通事故を減らそう”!! 教材活用事例紹介



《TQE特別委員会》委員の東京学芸大学自然科学系数学講座をご担当の西村圭一先生にご紹介頂いた英国 Bowland Maths 開発の「**ケーススタディ方式**」の教材「**交通事故を減らそう**」を実際の授業で活用している現場を、毎日新聞社の元村有希子記者が取材した記事が掲載されていますのでご紹介します。

東京都練馬区にある東京学芸大付属国際中等教育学校（出口利定校長）で行われた数学の授業で「**交通事故を減らそう**」を使っている模様を取材したものです。

<http://mainichi.jp/select/science/news/20110628ddm016040007000c.html>

「**理系白書 '11**」と題した元村記者の記事では“過程重視の授業で数学的思考育てる”という副題がついており、的を射た書き出しをご参考までにご紹介しますと『テストの成績はいいが、応用が苦手ー。国際調査などで指摘される日本人生徒の数学の「弱点」を克服しようという試みが始まった。英国で開発された教材を使うこの授業の特徴は「過程を重視し、正解を求めない」。答えが一つとは限らない現実の世界の問題を解決する疑似体験を通して、数学的な思考力や応用力を身につけることを狙う。』と、まさに日本品質管理学会や統計学会が取り組んでいる「問題解決力の強化」を狙った取り組みをご紹介します。

お問合せは blmj00@bowlandmaths.org まで。